



「ともに生きる」「ともに育てる」「みんなでつながる」

国分北小学校 川野 浩明

先日、県の校長研究大会に参加した際、**太田敬介氏(日本PTA全国協議会会長)**のご講演を伺う機会がありました。太田氏は、鹿児島市玉江小学校のPTA会長を皮切りに、県PTA連合会会長、九州ブロックPTA協議会会長を歴任され、**現在は全国の代表として活躍されている方**です。

PTAについては、近年さまざまな意見や課題が語られています。太田氏のお話は、「PTAは良い組織だから続けましょう」という単なる肯定ではなく、**「今のままではうまくいかない部分がある」と課題意識をもったもの**でした。

そもそもPTAは、**家庭・地域・学校が協力しながら、子供の学びや育ちを支える教育団体**です。**よりよい教育のために、自主的に活動することが目的の組織**です。しかし、長く活動が続ける中で、目的を実現するために作られた「ルール」が、いつの間にか**「やらなければならない義務」**になってしまい、本来の意義が見えにくくなっている現状がある、とのご指摘がありました。

では、これからのPTAに必要なことは何か。太田氏は、**「PTAの本来の目的をもう一度見つめ直し、時代や家庭のニーズに合わせて変化すること」**が大切だと話されました。

本校でも、PTAは「つながり」を大切に、**保護者の皆様が子育ての中で孤立しないように支え合う組織でありたい**と考えています。太田氏は、負担を感じている方こそ、PTAが寄り添い、助け合える関係づくりが重要だと強調されました。**できる人ができる範囲で支え合い、温かいつながりを守ることが大切だ**という言葉が印象的でした。

講演の最後に、太田氏は、PTAの究極の目的として、**「ともに生きる」「ともに育てる」「みんなでつながる」という姿勢を挙げられました。保護者同士が集い、悩みを共有し、互いを認め合うことで、子育てが「孤育て」にならず、親自身の幸せや子供たちの豊かな教育環境につながっていく、というメッセージで締めくくられました。**

今回の講演を通して、PTAの本質や役割を改めて考える貴重な機会となりました。**本校としても、保護者の皆様とともに改善をしながら、より良いつながりと温かい教育環境づくりを進めてまいります。**

